

審査意見(3月)_(添付資料)

目次

- 資料1 「IT人材受給に関する調査」
- 資料2 「Society5.0に向けた人材育成」
- 資料3 「独立行政法人情報処理推進機構のDX白書2021」
- 資料4 「Global Entrepreneurship Monitor2021/2022Global Report」
- 資料5 「18歳意識調査」
- 資料6 「養成する人材像と3ポリシーとの関連図」
- 資料7 「養成する人材像の構成図」
- 資料8 「3ポリシーと科目関連表」
- 資料9 「カリキュラムマップ」
- 資料10 「2023年度_カレンダー一例」
- 資料11 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説」
- 資料12 「入学者選抜の概要」
- 資料13 「独立行政法人情報処理推進機構のDX白書2021」
- 資料14 「国立高等専門学校機構による
『令和3年5月1日現在の本科卒業生の産業別就職者数』」
- 資料15 「IT人材白書2019」

【資料1】

1（書類等の題名）

代表的な需給の試算結果について

2（出典）

「IT人材需給に関する調査・調査報告書」

（みずほ情報総研株式会社（2019年3月））

3（引用範囲）

第3章（9ページ）

4（URL）

https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf

【資料2】

1 (書類等の題名)

Society5.0において求められる人材像、学びの在り方

2 (出典・引用範囲)

「Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」

Society 5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会

新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース

(6ページ)

URL :

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/__icsFiles/afieldfile/2018/06/06/1405844_002.pdf

3 (その他の説明)

・ 2.(1)の1-3行目等をマーカーで示す。

【資料 3】

1 (書類等の題名)

デジタル事業に対応する人材の「量」の確保状況

2 (出典・引用範囲)

「DX白書2021」

(94ページ/図章31-5)

3 (URL)

<https://www.ipa.go.jp/files/000093701.pdf>

【資料 4】

1 (書類等の題名)

国別起業家活動割合ランキング (18-64歳)

2 (出典・引用範囲)

「Global Entrepreneurship Monitor 2021/2022 Global Report」
第3章 (200・201ページ/Table A2)

3 (URL)

<https://gemconsortium.org/file/open?fileId=50900>

4 (その他の説明)

表中の日本のランクに赤線

【資料 5】

1 (書類等の題名)

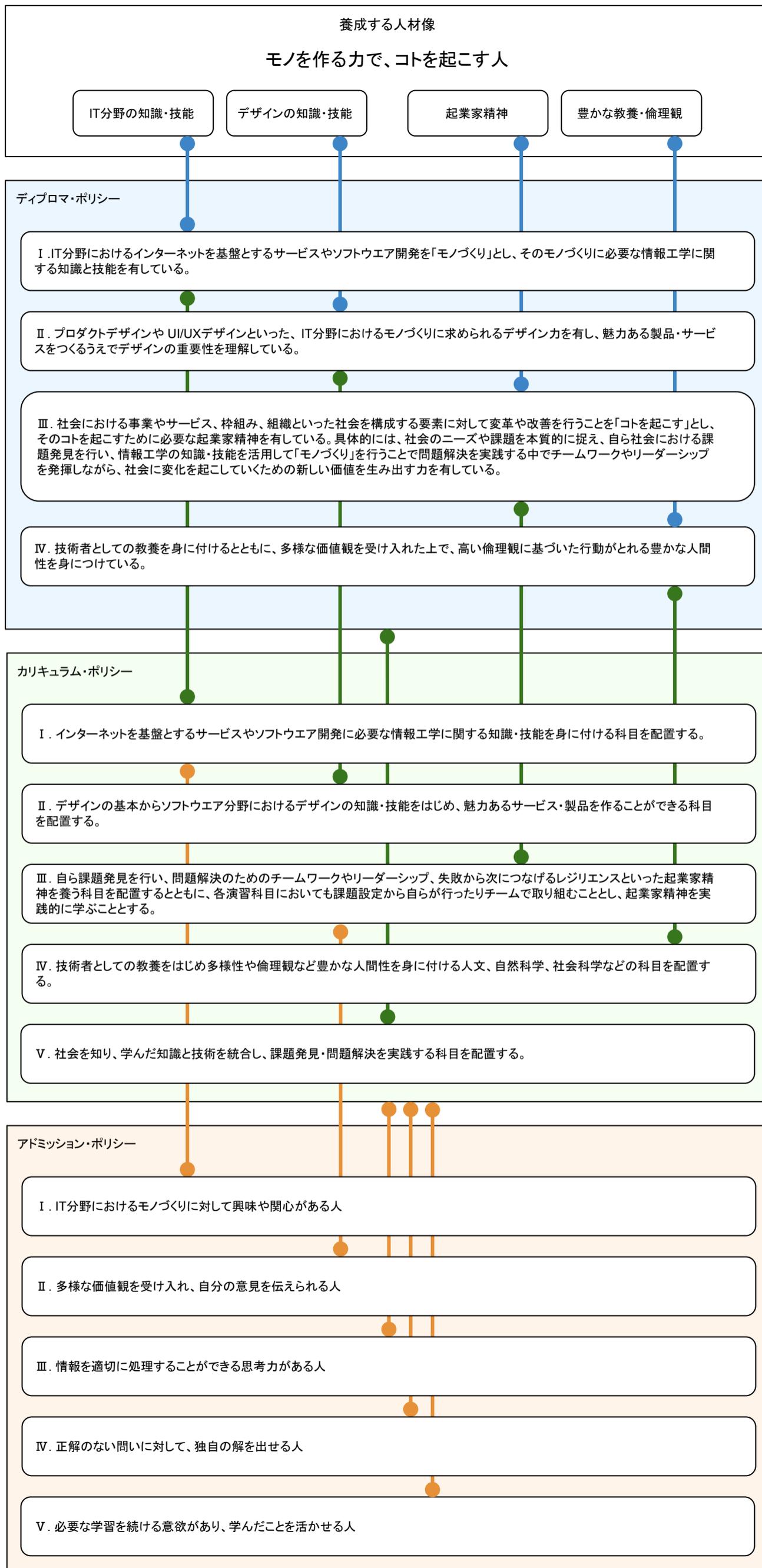
18歳の国別意識調査について

2 (出典・引用範囲)

18歳意識調査「第20回 -社会や国に対する意識調査-」要約版 (日本財団)
(5ページ)

3 (URL)

https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/11/wha_pro_eig_97.pdf



養成する人材像で掲げている内容を主に 4つの要素に分け左図の「養成する人材像」に配置した。インターネットを基盤とするサービスやソフトウェアの知識・技能を「IT分野の知識・技能」、また魅力ある製品・サービスをデザインするを「デザインの知識・技能」、課題発見する力やリーダーシップやチームワークなどを「起業家精神」、人間力として「豊かな教養・倫理観」の 4つの要素を配置した。

ディプロマ・ポリシー(以下 DP)の各項目は左図のように養成する人材像の各要素と関連付けている。DPの I は養成する人材像の「IT分野の知識・技能」、IIについては「デザインの知識・技能」、IIIについては「起業家精神」とそれぞれ関連付けている。IVについては人材の中心に据えた IT分野の技術者としての教養をDPの I で身に着けたうえで、豊かな人間性を身に付けることから「豊かな教養・倫理観」と関連付けている。

カリキュラム・ポリシー(以下 CP)の各項目は左図のように DPの各項目と関連付けている。

CPの I は「IT分野の知識・技能」と、CPの II は「デザインの知識・技能」と、CPの III は「起業家精神」と、CPの IV は技術者として「豊かな教養・倫理観」と、それぞれ身に付ける科目を配置し、該当する DPの達成するために関連付けている。また、CPの V は学んだ知識を使って課題発見と問題解決を実践的に行う演習科目を配置し、DPの各項目を達成するために DP全体と関連付けている。

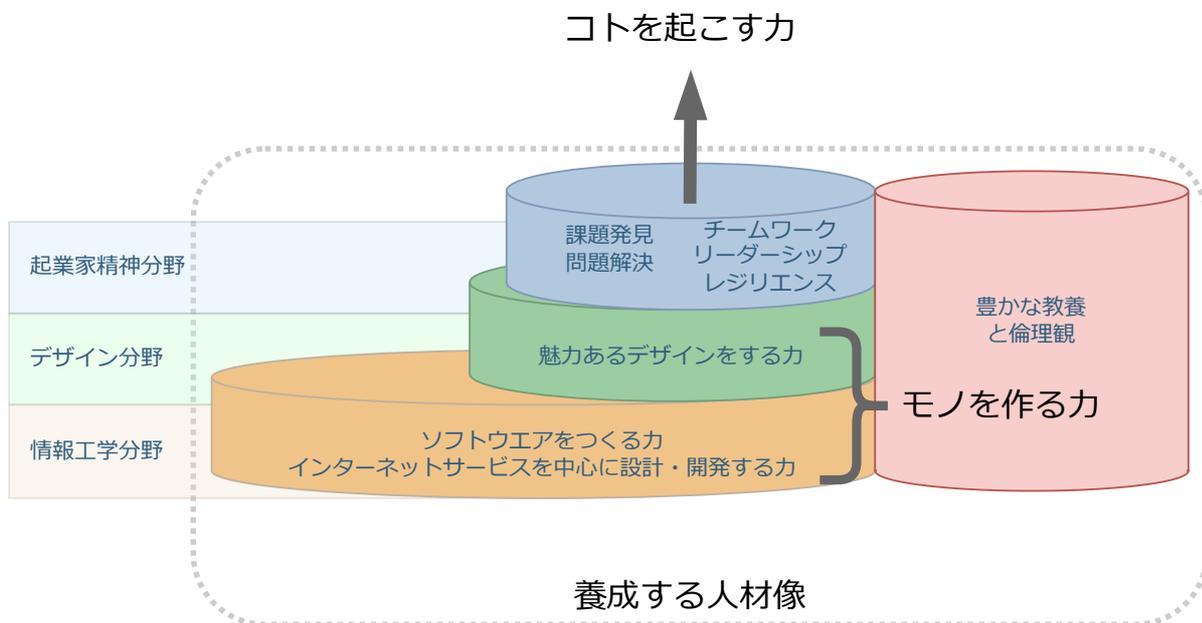
アドミッション・ポリシー(以下、AP)の各項目は左図のように CPの各項目と関連付けている。APの I は、CPの I に基づいた科目を通じて成長するため、APの II はCPの III に基づいた科目を通じて成長するために関連付けている。APの III、APの IV、APの V は、CPに基づいた科目を通じて学習するための基礎能力として、CP全体と関連付けている。

本学が養成する人材像の各要素を下図に示す。まず養成する人材の主たる知識・技能として情報工学分野におけるインターネットを基盤とするサービスやソフトウェアを開発する力を置いている。そのうえで、デザイン分野としてソフトウェア開発において魅力あるデザインをする力を置いて、情報工学分野とデザイン分野の2つの力を合わせて「モノを作る力」としている。養成する人材像の中でも触れている通り、「モノ」とは未来の社会を構成する要素として重要な基盤となるIT分野全般のソフトウェアやサービスと定義し、その中でもインターネット上のWebサービスやDX実現のためのソフトウェア分野を主としている。

このモノを作る力と、社会のニーズや課題を本質的に捉え、課題発見、問題解決、チームワーク、リーダーシップ、レジリエンスといった起業家精神分野の要素と組み合わせることで、コトを起こす力を持った人材を養成したいと考える。「コト」とは社会において変革や改善を行う対象として、事業やサービス、枠組み、組織といった社会を構成する要素と定義し、自ら社会における課題発見と問題解決を行ない、新たな仕組みやサービス、事業を創り上げることを「コトを起こす」としている。

また、知識や技能だけを有した技術者にとどまらず、正しくコトを起こしていく人材となるべくすべての専門的要素に関わる形で「豊かな教養と倫理観」を置いて豊かな人間性を兼ね備えた人材を養成したいと考える。

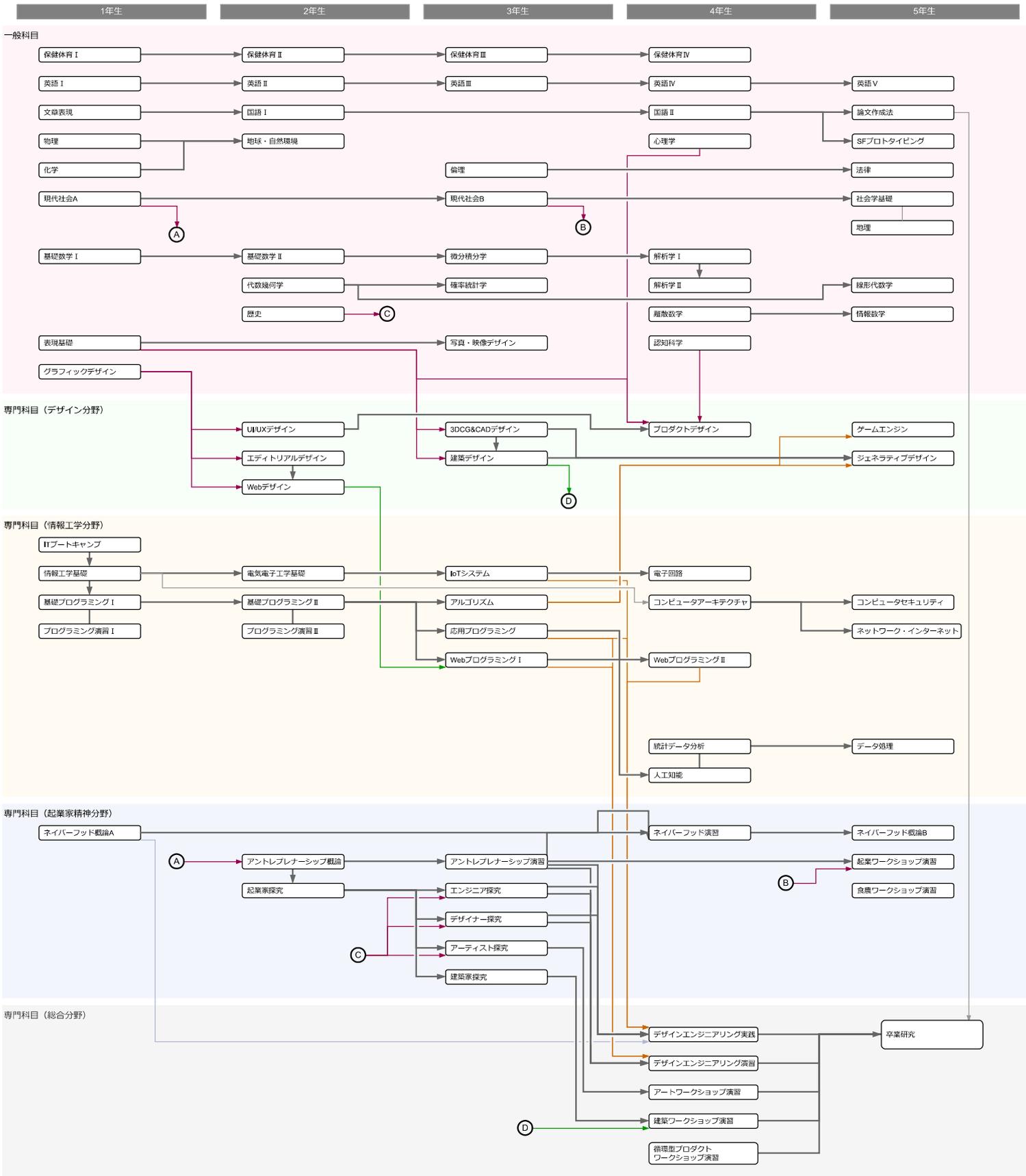
なお、各要素の円筒の大きさは編成した教育課程の各分野の比率を表しているが、正確な比率を表しているものではないため参考までとされた



【資料9】

下図に教育課程における各科目の主たる関連性を図示する。黒の実線で表す関係性は同一科目や同一分野での関連性を示し、色付きの実線は他分野からの関連性を示している。矢印が無い実線のみで関連付けられているものは、同学期において関連性が深い科目を示している。

専門科目（主に情報工学分野）に必要な数学の科目については、それぞれの科目が関連しており図が煩雑になることからこの図では示していないが、専門科目に必要な数学知識を履修しているよう教育課程を構成している。また、先行して基礎的かつ一部分の必要な知識については各専門科目内で取り扱うこととしている。専門科目の総合分野に配置している各演習科目への関連性についても、主に関連が深い科目のみ関連を示しており、各演習科目ならびに卒業研究へはそれまでに学んだすべての科目が関連している。



【資料10】

2023

4月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
26	27	28	29	30	31	01
02 入学式	03 オリエンテーション	04 オリエンテーション	05 ブートキャンプ	06 ブートキャンプ	07 ブートキャンプ	08
09	10 ブートキャンプ	11 講義 火前①	12 講義 水前①	13 講義 木前①	14 講義 金前①	15
16	17 講義 月前①	18 講義 火前②	19 講義 水前②	20 講義 木前②	21 講義 金前②	22
23	24 講義 月前②	25 講義 火前③	26 講義 水前③	27 講義 木前③	28 講義 金前③	29
30	01	メモ:				

2023

5月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
30	01 講義 月前③	02 講義 火前④	03	04	05	06
07	08 講義 月前④	09 講義 火前⑤	10 講義 水前④	11 講義 木前④	12 講義 金前④	13
14	15 講義 月前⑤	16 講義 火前⑥	17 講義 水前⑤	18 講義 木前⑤	19 講義 金前⑤	20
21	22 講義 月前⑥	23 講義 火前⑦	24 講義 水前⑥	25 講義 木前⑥	26 講義 金前⑥	27
28	29 講義 月前⑦	30 講義 火前⑧	31 講義 水前⑦	01	02	03
04	05	メモ:				

2023

6月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
28	29	30	31	01 講義 木前㉗	02 講義 金前㉗	03
04	05 講義 月前㉘	06 講義 火前㉘	07 講義 水前㉘	08 講義 木前㉘	09 講義 金前㉘	10
11	12 講義 月前㉙	13 講義 火前㉙	14 講義 水前㉙	15 講義 木前㉙	16 講義 金前㉙	17
18	19 講義 月前㊱	20 講義 火前㊱	21 講義 水前㊱	22 講義 木前㊱	23 講義 金前㊱	24
25	26 講義 月前㊲	27 講義 火前㊲	28 講義 水前㊲	29 講義 木前㊲	30 講義 金前㊲	01
02	03	メモ:				

2023

7月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
25	26	27	28	29	30	01
02	03 講義 月前㊳	04 講義 火前㊳	05 講義 水前㊳	06 講義 木前㊳	07 講義 金前㊳	08
09	10 講義 月前㊴	11 講義 火前㊴	12 講義 水前㊴	13 講義 木前㊴	14 講義 金前㊴	15 オープンキャンパス①
16	17	18 講義 月前㊵	19 講義 水前㊵	20 講義 木前㊵	21 講義 金前㊵	22
23	24 講義 月前㊶	25 講義 火前㊶	26 講義 水前㊶	27 講義 木前㊶	28 講義 金前㊶	29
30	31 講義 月前㊷	メモ:				

2023

8月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
30	31	01 前期末試験	02 前期末試験	03 前期末試験	04 前期末試験	05
06	07 前期末試験返却	08 前期末試験返却	09 前期末試験返却	10 夏季休業	11	12
13	14 夏季休業	15 夏季休業	16 夏季休業 閉寮	17 夏季休業 閉寮	18 夏季休業 閉寮	19
20	21 夏季休業 閉寮	22 夏季休業 閉寮	23 夏季休業 閉寮	24 夏季休業 閉寮	25 夏季休業 閉寮	26
27	28 夏季休業 閉寮	29 夏季休業 閉寮	30 夏季休業 閉寮	31 夏季休業 閉寮	01 夏季休業 閉寮	02
03	04	×E:				

2023

9月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
27	28 夏季休業 閉寮	29 夏季休業 閉寮	30 夏季休業 閉寮	31 夏季休業 閉寮	01 夏季休業 閉寮	02
03	04 夏季休業 閉寮	05 夏季休業 閉寮	06 夏季休業 閉寮	07 夏季休業 閉寮	08 夏季休業 閉寮	09
10	11 夏季休業 閉寮	12 夏季休業 閉寮	13 夏季休業 閉寮	14 夏季休業 閉寮	15 夏季休業 閉寮	16
17	18	19 夏季休業 閉寮	20 夏季休業 閉寮	21 夏季休業 閉寮	22 夏季休業 閉寮	23
24	25 夏季休業 閉寮	26 夏季休業 閉寮	27 夏季休業	28 夏季休業	29 夏季休業	30 オープンキャンパス②
01	02	×E:				

2023

10月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
01	02 講義 月後①	03 講義 火後①	04 講義 水後①	05 講義 木後①	06 講義 金後①	07
08	09	10 講義 火後②	11 講義 水後②	12 講義 木後②	13 講義 金後②	14
15	16 講義 月前②	17 講義 火後③	18 体育祭	19 講義 木後③	20 講義 金後③	21
22	23 講義 月前③	24 講義 火後④	25 講義 水後③	26 講義 木後④	27 講義 金後④	28
29	30 講義 月前④	31 講義 火後⑤	01	02	03	04
05	06	×E:				

2023

11月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
29	30	31	01 講義 水後④	02 休講 (高専祭準備)	03 高専祭	04 高専祭
05	06 講義 月前⑤	07 講義 火後⑥	08 講義 水後⑤	09 講義 木後⑤	10 講義 金後⑤	11
12	13 講義 月前⑥	14 講義 火後⑦	15 講義 水後⑥	16 講義 木後⑥	17 講義 金後⑥	18
19	20 講義 月前⑦	21 講義 火後⑧	22 講義 水後⑦	23	24 講義 金後⑦	25
26	27 講義 月前⑧	28 講義 火後⑨	29 講義 水後⑧	30 講義 木後⑦	01	02
03	04	×E:				

2023

12月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
26	27	28	29	30	01 講義 金後⑧	02
03	04 講義 月後⑨	05 講義 火後⑩	06 講義 水後⑨	07 講義 木後⑧	08 講義 金後⑨	09
10	11 講義 月後⑩	12 講義 火後⑪	13 講義 水後⑩	14 講義 木後⑨	15 講義 金後⑩	16
17	18 講義 月後⑪	19 講義 木後⑩	20 講義 水後⑪	21 講義 木後⑪	22 講義 金後⑪	23
24	25 休講 (高専祭代休)	26 休講 (高専祭代休)	27 冬季休業 閉寮	28 冬季休業 閉寮	29 冬季休業 閉寮	30
31	01	ME:				

2024

1月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
31	01 冬季休業 閉寮	02 冬季休業 閉寮	03 冬季休業 閉寮	04 冬季休業 閉寮	05 冬季休業 閉寮	06
07	08	09 講義 火後⑫	10 講義 水後⑫	11 講義 木後⑫	12 講義 金後⑫	13
14	15 講義 月後⑬	16 講義 火後⑬	17 講義 水後⑬	18 講義 木後⑬	19 講義 金後⑬	20
21	22 講義 月後⑭	23 講義 火後⑭	24 講義 水後⑭	25 講義 木後⑭	26 講義 金後⑭	27
28	29 講義 月後⑮	30 講義 火後⑮	31 講義 水後⑮	01 講義 木後⑮	02 講義 金後⑮	03
04	05	ME:				

2024

2月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
28	29 講義 月後⑤	30 講義 木後⑤	31 後期末試験	01 後期末試験	02 後期末試験	03
04	05 後期末試験	06 後期末試験返却日	07 後期末試験返却日	08 後期末試験返却日	09 後期末試験返却日	10
11	12	13 講義予備日	14 講義予備日	15 講義予備日	16 講義予備日	17
18	19 春季休業	20 春季休業	21 春季休業	22 春季休業 閉寮	23	24
25	26 春季休業 閉寮	27 春季休業 閉寮	28 春季休業 閉寮	29 春季休業 閉寮	01 春季休業 閉寮	02
03	04	ME:				

2024

3月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
25	26	27	28	29	01 春季休業 閉寮	02
03	04 春季休業 閉寮	05 春季休業 閉寮	06 春季休業 閉寮	07 春季休業 閉寮	08 春季休業 閉寮	09
10	11 春季休業 閉寮	12 春季休業 閉寮	13 春季休業 閉寮	14 春季休業 閉寮	15 春季休業 閉寮	16
17	18 春季休業 閉寮	19 春季休業 閉寮	20 春季休業 閉寮	21 春季休業 閉寮	22 春季休業 閉寮	23
24	25 春季休業 閉寮	26 春季休業 閉寮	27 春季休業 閉寮	28 春季休業 閉寮	29 春季休業 閉寮	30
31	01	ME:				

【資料 11】

1 (書類等の題名)

総合的な探求の時間の特質について

・探求が高度化し、自律的に行われることの必要性

2 (出典・引用範囲)

「高等学校指導要領（平成30年告示）解説—総合的な探求の時間編」

（文部科学省）

第2章（8・9ページ）

3 (URL)

https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/11/wha_pro_eig_97.pdf

4 (その他の説明)

8ページの最下三行に赤線

【資料12】

方法	実施予定内容	評価項目（アドミッションポリシーとの対応）
推薦書	在籍中学校による推薦書の提出を求める。	・推薦理由への回答（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ）
課題レポート	絶対的な正解のない課題を複数設定し、その回答をレポートにまとめて提出することを求める。なお、回答方法は課題ごとに異なり、制限字数の少ないものや多いもの、「A4用紙1枚で自由に表現しなさい」など言語による回答に縛られないものも含まれる。	・モノづくりへの意欲や、これまでの実績を問う設問への回答（Ⅰ） ・正解のない課題に対する回答の論理性、創造性や独自性（Ⅲ・Ⅳ） ・学習に対する意欲や、これまでの実績を問う設問への回答（Ⅲ・Ⅴ）
調査書	在籍中学校による調査書の提出を求める。	・中1～中3の1学期までの内申点（Ⅲ・Ⅳ） ・課外活動での実績（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ） ・生活態度に関する評価（Ⅱ）
（学習期間）	学力試験の出題範囲を予告する。	※なし
学力試験	数学及び国語のテストを実施する。	・本学が実施する数学テストの点数（Ⅲ） ・本学が実施する国語テストの点数（Ⅲ）
小論文	学力検査を実際に受験し終わった経験をもとに、本校受験の決意から出願時まで、並びに出題範囲が予告されてから今日までの、自分自身の学習の取り組みについて振り返りながら、自らの学習力をテーマとした小論文を執筆いただく。	・学習力をテーマとした小論文の内容（Ⅴ）
（適性検査）	1次選抜の合格者に対して、人や課題に向き合う際の行動特性を評価する適性検査をオンラインにて実施する。	※なし（ただし、面接の参考とする）
ワークショップ 選考	与えられたテーマに対して、制限時間の中で実際にモノづくりを行うことを求め、その取組過程と最終的な成果物を評価する。	・制作過程の取り組み姿勢に対する評価（Ⅰ） ・制作した成果物に対する評価（Ⅳ）
面接	ワークショップ終了後に行い、これまでの取り組みや提出物に対する評価を補完する目的で、複数の面接官による面接審査を行う。	・モノづくりへの意欲や、これまでの実績を問う設問への回答（Ⅰ） ・ワークショップ制作物への様々な評価に対する反応（Ⅱ） ・様々な視点から問われる質問への回答（Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ） ・学習に対する意欲や、これまでの実績を問う設問への回答（Ⅴ）

推薦入試

- I. IT分野におけるモノづくりに興味や関心がある人
- II. 多様な価値観を受け入れ、自分の意見を伝えられる人
- III. 情報を適切に処理する思考力がある人
- IV. 正解のない問いに対して、独自の解を出せる人
- V. 必要な学習を続ける意欲があり、学んだことを活かせる人

1次
試験

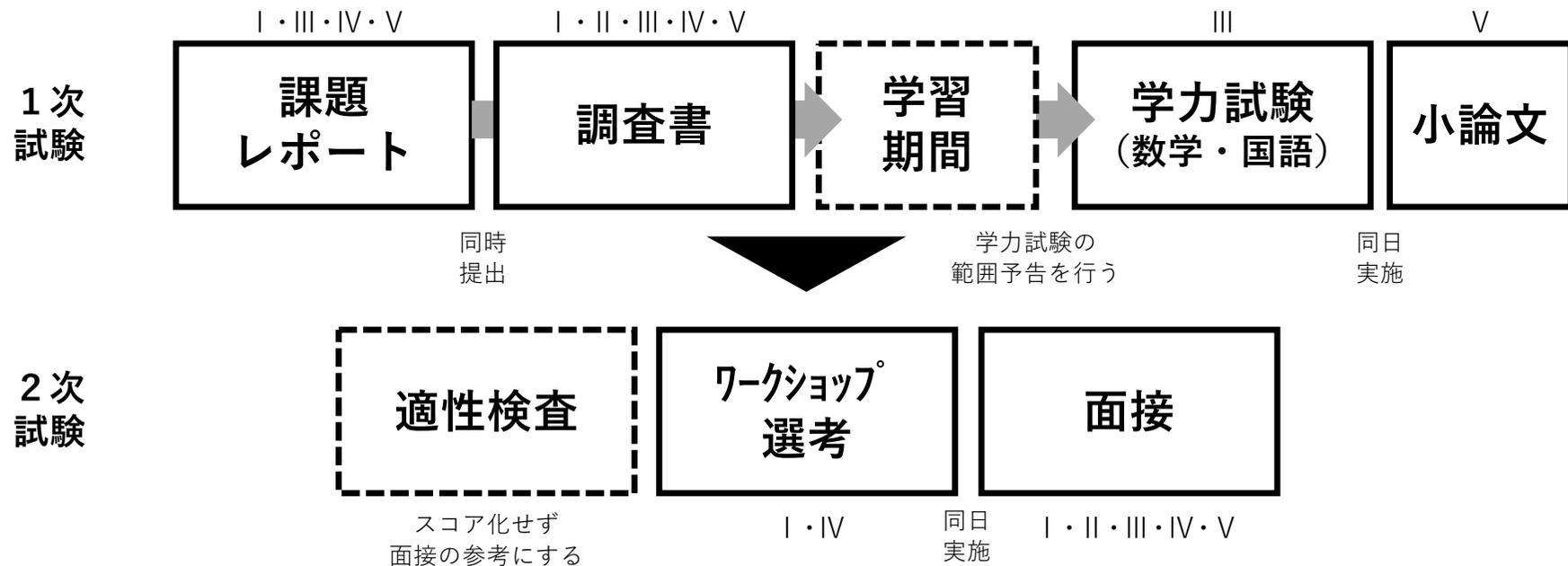


2次
試験



一般入試

- I. IT分野におけるモノづくりに興味や関心がある人
- II. 多様な価値観を受け入れ、自分の意見を伝えられる人
- III. 情報を適切に処理する思考力がある人
- IV. 正解のない問いに対して、独自の解を出せる人
- V. 必要な学習を続ける意欲があり、学んだことを活かせる人



【資料 13】

1 (書類等の題名)

DXへの取り組み状況 (業種別)

2 (出典・引用範囲)

「DX白書2021」 (独立行政法人情報処理推進機構)
第1部第1章 (3ページ/図表11-2)

3 (URL)

<https://www.ipa.go.jp/files/000093699.pdf>

【資料 14】

1 (書類等の題名)

高等学校卒業生の進路状況について

2 (出典)

「KOSEN (2021年度)」 (独立法人国立高等専門学校機構)
第1部第1章 (15ページ)

3 (URL)

https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/00_kouhou/kosengaiyo2021.pdf

【資料 15】

1 (書類等の題名)

IT人材の”量”に対する過不足感

2 (出典)

「IT人材白書2019」(独立行政法人情報処理推進機構)
(160ページ/図表3-2-14、3-2-15)

3 (URL)

<https://www.ipa.go.jp/files/000093699.pdf>